

令和6年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

対象	研究課題名	研究内容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
1 肉用牛	「脂の旨さ」を引き出す和牛肥育技術の開発	肥育後期に脂肪酸カルシウムを給与し、脂肪の質の改善効果について検討する。また、供試牛について脂肪の質に影響する遺伝的能力を調査し、個体の特性に応じた飼料給与による「脂の質」の改善を試みる。	R5～R7	県単プロ (ブランド育成)	
2 肉用牛	種雄牛候補牛の「おいしさ」に関する特性分析試験	出荷、屠畜された候補牛産子を牛肉を購入し、雌雄別、ランク別に分け、枝肉形質、物理的性質、うま味成分検査を実施し、候補牛毎に傾向分析を行う。また、産子に対してSCD遺伝子型検査を実施し、SCD遺伝子型と脂肪酸組成および不飽和脂肪酸含有率との関連を分析する。	R4～R6	県単プロ (ブランド育成)	
3 肉用牛	哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立	当課で生産された初生子牛に対し、1日の給与回数と1回当たりの給与量の異なる高タンパク低脂肪代用乳(強化哺育)を給与し、体重、体高、ボディコンディションスコアを測定し、増体を比較する。また、その結果を踏まえ、哺乳期間の短縮を検討する。	R4～R6	県単プロ (ブランド育成)	
4 肉用牛	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立(和牛繁殖への未利用資源)	飼料価格高騰に対応するため、県下で多量に発生する規格外ニンジンを周年利用が可能となるようサイレージ化を試みる。また、これを繁殖牛や分娩を控えた牛に与えることで、繁殖成績と子牛の免疫の向上を図る。	R6～R8	地方創生 (環境負荷)	
5 肉用牛	種雄牛による県産和牛改良促進に向けた現地調査試験	種雄牛候補牛精液を協力農家が保有する黒毛和牛に交配を行い、得られた産子について生時の体格調査を実施する。また、産子とその母牛についてゲノミック評価を行い、遺伝的能力を推定することで、種雄牛による県産牛の改良を効果的に推進する。	R5～	県単	
6 肉用牛	受精卵供給センター事業	黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。	H1～	県単	
7 肉用牛	県有種雄牛造成体制整備事業	徳島県独自の系統構成を持つ特色ある種雄牛を造成し、優秀な種雄牛から生産した精液の供給体制の整備を図るとともに、種雄牛が有する優良遺伝子を活用した新ブランド牛の創出に取り組み、牛肉の美味しさを指標とした県内肉用牛の育種改良及び品質向上を図る。	R6	地方創生	
8 乳牛	乳牛の疾病予防及び繁殖向上に有効な外貌変化モニタリング技術の開発	画像解析によるカウシグナルのモニタリング技術の開発により、早期に異常や問題を発見し迅速に解決策を酪農家へ提示するシステムの構築を目指す。AI利用による飼養管理診断システムの基礎を構築する。	R6～R8	地方創生 (生産性)	県酪
9 乳牛	中規模酪農経営改善推進事業(乳用牛群検定普及定着化事業)	検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。	H13～	県単 (畜産振興)	県酪 牛群検定組合
10 乳牛	家畜改良総合対策推進事業	受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。	H20～	県単 (畜産振興)	
11 豚	徳島県産豚肉の品質向上に関する実証試験	「高温ストレス耐性のある豚群作出技術の開発」(R2～R4)に取組み、遺伝子型により肉質に差のある1塩基DNA多型(SNP)を発見した。それらの情報を種畜選抜時の指標として用いた場合の改良効果を検証するため、実際に種畜を選抜、その産子の肉質評価を行う。また、生産者の豚についてSNPと肉質の関連性を調査し、生産者で有効なSNPを明らかにする。	R5～R7	県単プロ (養豚の生産性向上)	
12 豚	低タンパク質飼料と消化性を高める資材を活用した環境負荷低減型養豚技術の開発	家畜の排泄物から発生する亜酸化窒素(N ₂ O)の削減を図るため、飼料中の粗タンパク質配合割合を低下させ、なおかつ、発育及び産肉性の低下等を招くことのない環境負荷低減型技術を開発する。	R4～R6	県単プロ (養豚の生産性向上)	
13 豚	開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	雌系品種として広く利用されている大ヨークシャー、ランドレース及び雄系品種のデュロックについて、SNP及び育種値による能力評価と選抜を行い、効率的な種豚の改良技術の開発に取り組みとともに改良した種豚を供給する。	R1～	県単	
14 豚	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立(豚へのメカブ給与試験)	繁殖母豚にメカブを給与し、腸内細菌叢の変化やストレス指標の評価を行う。また、繁殖成績・子豚の発育成績から、母豚の耐ストレス性及び生産性の効果を明らかにする。	R6～R8	地方創生 (環境負荷)	徳島大学
15 阿波とん豚	「阿波とん豚」増産・流通システム確立事業	阿波とん豚の繁殖能力に関連したDNAマーカーを実際の育種改良に利用し、繁殖能力の高い遺伝子を持つ阿波とん豚種豚を生産農場へ供給することにより、阿波とん豚の増産体制の強化に取り組む。	R3～	地方創生 (畜産振興)	
16 阿波とん豚	阿波とん豚の維持に関する試験	新しい戻し交配世代における第6及び15染色体遺伝子の固定(マイクロサテライトDNAマーカーによる)、固定豚の中から発育に関わる遺伝子領域の絞り込みを行い、阿波とん豚の特徴を保持しながら、発育等について緩やかな改良を図る。	H28～	県単	
阿波とん豚	抗病性改良による阿波とん豚の育成率向上試験	阿波とん豚において、疾病が影響を及ぼす形質(増体・死亡率・内臓の病変等)を調査し、抗病性の指標とする一方、抗病性に影響する遺伝子が報告されている領域を中心に解析を行い、指標とした形質と関連性のあるDNAマーカーを探索する。これらの取組により、阿波とん豚抗病性の改良が可能となるDNAマーカーを開発する。	R6～R8	県単プロ (養豚の生産性向上)	
17 肉用鶏	鶏舎の衛生環境を改善するAIロボットの開発	平飼鶏舎において、有害微生物等の増殖を抑え、鶏を健全に飼育し、生産性の向上を図るため、UV-LEDを装備したAIロボットを開発するとともに、その効果を検証する。	R5～R6	地方創生 (生産性)	日本フネン (株) 徳島大学

	対象	研究課題名	研究内容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
18	肉用鶏	ブロイラー産肉能力試験	ブロイラーの改良動向を把握し、県内養鶏農家の飼養管理技術改善の結びつける指針を得るため、県内流通の主要銘柄について産肉能力を調査する。	S52～	県単	
19	肉用鶏	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立（阿波尾鶏への飼料米給与試験）	県産飼料用米の利用拡大及び飼料費削減を図るため、市販配合飼料への飼料用米上乗せ添加した飼料給与による阿波尾鶏の育成成績や肉質等に及ぼす影響を評価し、科学的根拠の明示及び適切な添加量等を検討する。	R6～R8	地方創生（環境負荷）	美馬農業支援センター 貞光食糧工業（株） JA美馬
20	阿波尾鶏	阿波尾鶏の輸出を推進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の検討	シンガポールへの阿波尾鶏輸出を想定し、食鳥処理工程における消毒剤の選択、使用方法について、微生物学的性状及び肉質への影響を基に評価し、衛生管理方法について検討する。	R4～R5	県単（トータルサポート）	
21	阿波尾鶏	阿波尾鶏安定生産確保事業	「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給に取り組む。	H13～	県単	県養鶏協会
22	飼料作物	子実とうもろこしの安定多収生産技術の開発	「みどりの食料システム戦略」の目標である化学肥料使用量30%削減の条件でも飼料用トウモロコシの子実収量の安定生産を可能とする堆肥主体の減化学肥料管理技術を明らかにする。	R4～R6	委託プロ	農研機構他11機関
23	飼料作物	高能力飼料作物優良品種選定調査	本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図る。	H22～	受託	日本草地畜産種子協会
24	飼料作物	飼料高騰対策に向けた粗飼料増産方法の検討	本県の利用体系や気候風土に適した粗飼料増産を図るため、寒地型イネ化牧草で夏場まで長期間収量確保ができる品種を検討する。	R4～R6	県単	
25	飼料作物	自給飼料対策事業	畜産農家の適切な飼料給与を図るため、自給飼料等の成分分析を実施する。	H19～	県単	
26	飼料	流通飼料対策推進事業	牛飼料の製造、販売業者及び畜産経営者において、牛用飼料を採取し、牛由来たん白質の検出及び動物の種類を判別することにより、飼料安全法の遵守状況を確認する。	H18～	県単	
27	環境	畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	一般排水基準が導入されても対応可能なように、処理水中の硝酸態窒素(N)、リン(P)、COD等を低減する汚水の負荷軽減技術について検討する。	R4～R6	県単	
28	環境	畜産バイオマス利活用推進事業（環境汚染防止対策） （堆肥等品質・成分分析） （環境汚染防止対策）	畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。また、堆肥、尿汚水の成分分析を実施する。 また、堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施し、畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。	H28～	県単	資源環境研究課 農業支援センター
29	環境	モミガラ長期保存実証	モミガラの運搬効率を考えフレコンバック利用を基本とし、野外で保存する方法として、①内袋の利用、②フレコンカバーの利用、③防水フレコンバック利用、④コンポストバックの利用における保存適正を比較する。	R5～6	地方創生（環境負荷）	高度技術支援課 農業支援センター
30	環境	鶏舎場におけるハエの防除対策の検討	鳥インフルエンザウイルスが鶏舎へ運搬される要因としてオオグロハエが考えられている。そこで、鶏舎へのオオグロハエの飛来状況を調査し、効率的な防除方法を検討する。	R6～7	地方創生（生産性）	家畜保健衛生所